

火葬場を仮想するワークショップ

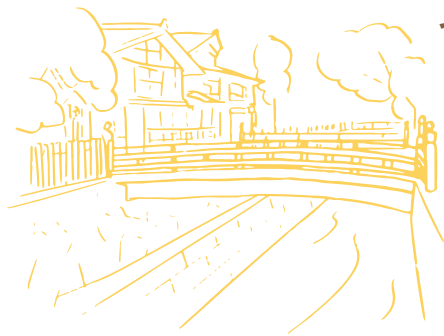
未来に贈る火葬場とは？



声をかたちに、想いを重ねながら
みんなで描いた“仮想プラン”。
未来へ手渡す、火葬場のすがた。

第4回

全4回で取り組んできた火葬場ワークショップも、いよいよ最終回。第4回は、これまでの意見をもとに生まれた「仮想プラン」の紹介と意見交換からはじまりました。プランの動線や空間の関係について話し合いながら、「どこにどんな時間が流れてほしいか」を見つめ直す時間となりました。後半では、火葬場のある風景やまちとのつながりもふまえながら、「この場所で大切にしたいこと」をひとつずつ言葉に。集まった声は、これからの基本計画づくりに向けて、たしかな土台になっていきます。



5/17(土) 13:30~16:00

高山市図書館「煥章館」生涯学習ホール
参加者：15名

当日のプログラム

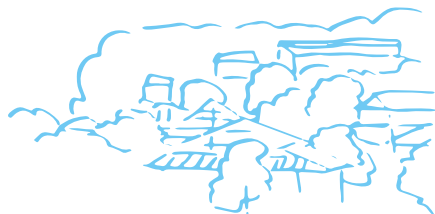
- 13:30 はじめに／
前回のふりかえり
- 13:40 ワークショップから
生まれた仮想プランの紹介
- 13:55 ワーク① 仮想プランに
ついて意見を交わそう
- 14:30 これまでのふりかえり
- 14:45 ワーク②
大事にしたいことを絞り込み、
新しい火葬場に望む姿（仮想
プラン）をまとめよう
- 15:50 ごあいさつ・おわりに



プログラム詳細

1 はじめに／
前回のふりかえり

前回のワークまとめ資料、スライドを使いながら、第3回の内容についてふりかえりました。



2 ワークショップから生まれた仮想プランの紹介

これまでの話し合いで出た意見を踏まえて、仮想プランを3案つくり、提示しました。

仮想プランにおける各案のポイント

配置の考え方：前提として、平屋ではなく2層の建物にして敷地の南側に寄せて配置。敷地の高低差に沿って一部を半地下化。

モデル図：待合室と告別・収骨室を上下に重ねるように配置した1案と2案に対し、3案ではその2室を同じフロア（1階）に配置。それにより、3案では両方の部屋からの眺望の確保を可能としている。

3つの仮想プラン

配置の考え方	【課題解決検討プラン（令和5年度）】 【改善する主な内容】 【仮想プラン】		
	待合室への移動が長い 現火葬棟の跡地に建築する 将来の建替えの余地がない		
	サービスヤード or 車寄せ 屋根 1F B1F サービスヤード or 車寄せ 南側配置・2層構成・半地下化		
想定可能な案	1案（車寄せ及び告別・収骨室地下配置案）	2案（告別・収骨室のみ地下配置案）	3案（会葬者エリア1階完結案）
モデル図			
炉設備と待合室及び告別・収骨室の位置関係	2層構成により上下階を占有	2層構成により上下階を占有	2層構成により上下階を占有
会葬者と棺の移動	○会葬者の移動（駐車場⇄告別・収骨室、待合室⇄告別・収骨室間）にエレベーターが必要	○「会葬者」及び「棺を乗せた運搬車」の両方ともにエレベーターによる移動となる	○会葬者の上下階移動なし。棺のみ昇降設備により移動。
告別・収骨室からの眺望	○眺望は待合室のみ。告別・収骨室は眺望なし。	○左欄と同じ	○告別・収骨室及び待合室双方に眺望を確保可能。

3 ワーク① 仮想プランについて意見を交わそう

ワークの結果を一部抜粋してご紹介

1案に対して

- エレベーターでの移動がやさしくない
- B1Fから入るためにはロータリーが必要になるのではないか
- 高齢者・障がい者への配慮が必要
- 1炉ごとにエレベーターがあれば
- 駐車場とエントランスホールが遠い

- バリアフリーではなくなる
- 真下に炉がなければ問題ない
- 告別・収骨室からも外の景色が見えてほしい

2案に対して

- 棺の移動距離が長くなる
- 棺を乗せるための大きいエレベーターが必要になるのではないかな？

3案に対して

- バリアフリーで完結している
- 棺と会葬者が一緒に入場する場合、スペースを十分確保することが必要
- 設備費がかかるのではないかな
- 動線的にシンプル
- 玄関前にバックで車がつけられるとよい

全体に対して

- 新火葬場のネーミング（愛称）をみんなで決めたい
- 単に火葬するだけではない施設
- 建物をコンパクトにすると空きスペースが広がる
- 高山の新しい文化を体験できる場
- 命の教育ができる場
- 庇があればよい

4 これまでのふりかえり

第1回～第3回のワークショップで出た意見を整理し、次のワークのために、以下9つのカテゴリにわけました。



- 01 眺望・外の風景の取り込み 02 飛騨らしさ／自然周辺環境との調和 03 建物／内装バリアフリー 04 空間機能・子どものための場所 05 こんな場所、環境がほしい
- 06 まちとのなじみ方地域との関係 07 故人への寄り添い方 08 イメージの変化 09 火葬場での過ごし方時間のゆっくりさ

5 ワーク② 大事にしたいことを絞り込み、新しい火葬場に望む姿（仮想プラン）をまとめよう

9つのカテゴリごとに、これまで出た意見の中から、自分がこれは最も大事だと思うものを出し合いました。

ワークの結果を一部抜粋してご紹介

01 眺望、外の風景の取り込み

- 窓から春夏秋冬を感じられる
- 眺望を大きく取り込んでいる
- 窓から外の風景が見えると良い
- 閉鎖された空間でない
- どんな人でも気兼ねなく来れる
- 可能な限り光庭が見えると良い
- 外の緑・光が入る建物（待合室）
- 天窓からの採光
- 周囲の山を整備して里山を再生
- 周りの山の散歩コースとつながっている
- 告別室はより明るく
- 建屋の西側（レッドゾーン）には木を植える
- 現火葬場の跡地は緑地とする

02 飛騨らしさ／自然、周辺環境との調和

- 緑や花が美しい
- 火葬場の外に出て自然の中を歩く
- 庭を散策してリフレッシュできる
- 公園のように自然が豊か
- 四季の木の並木がある道路（桜や広葉樹など）
- 緑や花が美しい庭園を散策したい
- 庭や花壇、自然石があると良い
- 季節感を感じられる空間（冬の景観はどうするのがよいか）
- 木々や花、空が見える
- 土砂崩れに気を付けてもらいたい
- やわらかな色の外壁
- 飛騨の木が内装にも家具にも多く使われている
- 飛騨っぽいネーミング

03 建物／内装、バリアフリー

- バリアフリー必須
- 高山らしい壁画がある
- 壁に絵などを飾る
- 軽くて曲がる（ペロブスカイト）太陽電池を取り入れてほしい
- 電動車椅子ひとりでも移動可能な十分な動線確保
- 木質仕上の待合ロビー
- 温かみがあり滑りにくい床材
- 鉄骨の建物でもすべて木で囲って木造の建物にする
- オストメイト対応のトイレがある（キッズトイレ）
- すべての人にやさしい建物
- ユニバーサルデザインである
- 内装は間接光より天窓からの自然光が好き
- 木目を生かした壁（飛騨の木材を使用）
- 県・市産材を使ってほしい

04 空間機能・子どものための場所

- 授乳室、キッズルームは必須
- ひとりでいられる空間が別棟にあってもいい
- 家族葬ができる空間
- 遺族が今後を相談しあう会議室のような空間
- 待合・ロビーも共有にはならないほうが良い
- 1炉1家族
- 入りやすい待合室とロビー
- 着替えられる個室がほしい（ハンガー・パウダールーム）
- 外を子どもと一緒に歩き回れると良い
- 授乳室は広く明るく
- 子ども達を遊ばせることのできる場所
- 子ども達が気楽に過ごせる場所

05 こんな場所、環境がほしい

- 人に寄り添える空間
- 亡くなくても大事な命なんだということを伝えたい
- 高齢者のための椅子が多めにある
- 収骨しない方のため慰霊塔があれば
- 喫煙所の充実（すみっこなどではない）
- 墓参りに来た人にも駐車場を開放
- 換気をよくしてほしい
- 食堂やカフェがあるといい
- スタッフが安心して働ける
- 椅子席とほんの少しの畳がほしい
- 火葬場施設内はすべて椅子にしてほしい
- 動物のお墓が行きやすい場所にある
- 自販機がほしい
- 墓参りに来た人が休める場所がある
- 泣けるトイレ（天井が高いなど）ありかも
- 別棟があると多目的に使える
- 待合室にはない機能を持った別棟（自分の心の整理、友人などと話せる場）
- 高齢者や身体の弱い人がゆったりできる時間、ゆとりのあるスペース
- 最後のお別れにふさわしい雰囲気
- 火葬のスイッチはあったほうがいい
- 化粧直しができるコーナー

06 まちとのなじみ方、地域との関係

- 地元の人が当たり前の風景だと感じている
- 地元の人は特別意識はない
- 火葬場に向かう道路がホッとする環境
- 火葬場までの道路に花や木を植える
- 地元の子ども達が墓地を走っている
- 生活と一緒に火葬場がある
- 道を広げたら電柱を埋設したらどうか
- 音など地域への配慮を
- 地域住民が花や植物を管理し、つないでいける場所
- 地元の人が当たり前に受け入れてくれることに感謝したい

07 故人への寄り添い方

- 親族だけでなく知人なども寄りやすい
- 仲良しな人は最期まで送ってあげたい
- 一人ひとりを大切に
- 故人を語る時間を持つ
- お見送りに故人の好きだった音楽が流せる
- 待合室やロビーで静かな音楽が流れている
- 故人の人生をゆっくりと話せる場所があると良い
- 写真を置いて故人の話をしたい
- 遺族・親族に遠慮しすぎず見送れるようにしたい
- 故人の思い出を貼るパネルコーナー
- 故人の希望が叶うようにしたい
- 家族以外の人たちも敷地内で手を合わせられる場所がある
- 生きてきた証を大事に

08 イメージの変化

- 火葬以外にも活用できる場所
- 温かい雰囲気火葬以外にも訪れたい
- マイナスイメージをプラスに
- イベント会場ではなく厳粛な場所であること
- 職員の服装を変えてほしい
- 火葬場＝怖いというイメージをなくしたい
- 一般に持ちやすい不吉なイメージを変えていく
- 外国人（観光客）の方への説明も
- 火葬場は決して迷惑施設ではない
- 子ども達が怖がらない
- 死は神聖で厳かなもの
- とにかく明るく
- 一般の公園と変わらないイメージがいい（生と死の境目がない）
- 今までは行き来が面倒くさかったがそれが解消される
- 二度、三度と来るうちに懐かしさを思える場づくり

09 火葬場での過ごし方、時間のゆっくりさ

- 外に出たりして気分転換ができる
- やさしい空気が流れているところで見送られたい・見送りたい
- 感謝、ありがとうと言いたくなる環境、スタッフの対応
- 快適に食事が取れる
- 時間にとらわれず、余裕のある行動がしたい
- 別に休める場所があるといい（ゆったりとしたソファなど）
- 一人でゆっくり過ごせて、静かで、心も身体も落ち着く場所
- 久々に会う人たちが多くと思うので、昔話に花が咲くと思う
- 静かで、心も身体も落ち着く場所
- 時間にあまりとらわれたくない
- やさしい空気が流れているところで見送られたい

進行役よりコメント

これまでの対話をもとに生まれた仮想プランを見つめながら、火葬場に流れる時間や空間のあり方をあらためて言葉にしていきました。一人ひとりの声が重なり合い、火葬場という場の意味が少しずつ深まっていく感覚がありました。積み重ねてきたこの対話が、これからの設計に息づいていきますように。

主催：高山市役所 市民福祉部
火葬場建設推進課
協力：東畑建築事務所／LifeWork
発行：2025年5月17日